

新規事業“ふくやまアダプト活動”の展開！！

10月3日（日）、福山老人クラブと福山ボランティアの会による「ふくやまアダプト活動」が展開されました。当日は、秋晴れのもとで6つのグループに分かれて、福山地区内の県道わきのごみ、空き缶等を収集されました。（アダプトとは、英語で「養子縁組をする」という意味で、住民等が清掃・美化活動などを中心に地域を「わが子のように面倒をみる」という手法です。）



10月は夢農場で芋掘り会

- 10月12日、福山地区ボランティアの会が土居小学校と土居幼稚園の児童園児約40人を招いて、夢農場で芋掘りをしました。
- 10月19日、湯の里チビッツクラブさんが芋掘りをしました。
- 10月20日、福山地区ボランティアの会が「なごみ」さんを招いて、夢農場で芋掘り会を開催しました。



ふくやまの歴史と伝えシリーズ

「黒見山の由来」



黒見山は今から1300年ほど昔、奈良時代前期、天智天皇の御代に役の小角という行者によって修験の行場として開かれ、行者山と呼ばれていました。その後、奈良時代の聖武天皇の御代になって、勅命を受けた行基菩薩という高僧が全国の霊場を巡錫されました。その途中、萬善の横尾山に入られ一休みされていた時、お山に紫の雲がたなびき、観音様が夢枕にお立ちになりました。

足元からは「仏法僧」という三宝鳥が飛び立ち、行く先遠くの深山に黒肉燦然と光り輝くものが見えました。行基菩薩がその黒光りを目指して山を登り近寄ってみると幾千年を経た真っ黒に光る古木があり、眼前には修験の行場が開かれていました。菩薩はこの霊木で十一面観世音菩薩の尊像を刻まれ、修法をされました。下山された菩薩は山麓の横尾山に小堂を建立して安置し、寺号を観音寺と称し、行者山をこの寺の奥の院と定められました。行者山はここのご縁によって、村人たちが黒見山と呼ぶようになったということです。（香山昌男さん蔵書「作東の遺跡と民話Ⅱ」から抜粋）

現在も地域住民により年2回の草刈り、奥の院の清掃などが行われています。4年前には遊歩道の整備、昨年からは桜の植樹などが始まり「福山のシンボル」となることが期待されています。

山の学校ランチ

2日：鍋焼きうどん（限定15食）

※年内最後の営業です。

※開催日、メニューは都合により、変更される場合があります。

編集者：福山自治振興協議会・福山地区社会福祉協議会・さくとう山の学校かわら版編集室 連絡先：0868-75-7126（さくとう山の学校取次）

Email：gs.fukuyama@gmail.com

楽行かわら版に掲載したいお知らせ、記事等がありましたら、上記連絡先までご連絡ください。

山家川俳句会
今月の俳句

鯉はねる音も静けき秋の暮

樽井千草

雨止みて振はい戻る虫時雨

豊田絢子